



サンフラワープロジェクト

明るくきれいに咲いて

児 釈 迦 内 小 童 ヒマワリの種を袋詰め

地域住民が庭先でヒマワリを育てる「一戸一ひわり運動」に向け袋詰め作業に取り組む児童たち（大館市釈迦内小で）

ヒマワリの栽培を通じた地域活性化に取り組んでいる大館市釈迦内小（三浦栄一校長）で19日、釈迦内サンフラワープロジェクトの「一戸一ひわり運動」で配布するヒマワリの種の袋詰め作業が行われた。児童たちは、地域住民らが今年もきれいな花を咲かせてくれることを願いながら丁寧に作業に臨んだ。同市の釈迦内地区では、学校や幼稚園、事業所、地区住民がサンフラワープロジェクト実行委員会を組織している。地区内でヒマワリの花を育て、種から食用油を精製して販売している。学校

だけでなく、住民が庭先で育てる「一戸一ひわり運動」も展開。夏には地域一帯が黄色い花で彩られる。

同校では、今月中旬から同運動で配布する種とチラシ入りのビニールパックの袋詰め作業を実施。2～6年生約230

人が袋詰めや地区住民などに向けたメッセージ制作に取り組んでおり、地区内（2800個）や同プロジェクトに協賛する

旧大館市内の銀行、郵便局（3200個）に配布する計6千個の袋詰め作業を行っている。この日は6年生児童が

作業に当たり、同校が購入したハルリンゾウの種とともに、「ひまわりで釈迦内を笑顔でいっぱいにしませんか」「みんな

作業に当たり、同校が購入したハルリンゾウの種とともに、「ひまわりで釈迦内を笑顔でいっぱいにしませんか」「みんな

に話めていった。

齋藤海咲さん（11）は「地域の人たちがヒマワリを大切に育ててくれるようにと思い込めながら丁寧に袋詰め作業に取り組んだ。太陽に向かって明るく、きれいな花を咲かせてほしい」と話していた。

同校は、郵便局のダイレクトメールを活用し、児童たちが袋詰めしたパックを今月下旬に同地区の各家庭や事業所に一斉配布する予定。